

全国極真空手で好成績

清水町の中学生 長島きょうだい 喜びや目標語る

4月に開かれた極真空手の全国大会で好成績を収めた大石道場清水町本部の中学生のきょうだい選手がこのほど、町役場に関義弘町長を訪ね、結果を報告した。

訪れたのは桐陽高3年長島寛明さん(17)、同2年義暢さん(16)、町立清水中1年瑞希さん(12)。全日本極真空手道「型」選手権の中学生女子で瑞希さんが準優勝、全日本少年少女



トロフィーを手に、関町長に結果を報告する(右から)長島瑞希さん、義暢さん、寛明さん＝清水町役場

空手道選手権の高校男子重量級で寛明さんが2位、同軽量級で義暢さん、中学女子重量級で瑞希さんがそれぞれ優勝。町立清水小4年の次女捺希さん(9)も加わった4人は5月のフィリピンで開かれた国際大会に出場し、全員優勝した。

寛明さんは「決勝で負けたのは悔しい。次は絶対に勝ちたい」、義暢さんは「練習した蹴り技を多く出すことができた」、瑞希さんは「自分より大きな相手にも勝てたので良かった」と話した。